

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分	
基本目標	3 伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る
具体的な施策	ア 「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備
	② 安全な暮らしを守る地域づくり
	1 地域を支えるインフラ・サービスの活性化
事業名	防災行政無線同報系デジタル化整備事業
担当課名	総務課
所属長名	堀 江 一 弘
関係課名	
事業の目的	防災行政無線の統合とデジタル化を図ることで、老朽化した機器を更新し、迅速かつ正確な情報伝達をすることにより、住民の生命及び財産を守ることを目的とする。
事業の内容	防災行政無線同報系デジタル化整備工事（屋外拡声子局）を年次計画により最新のデジタル化機器に更新する。（計画期間：平成27年度～平成31年度）
事業の実績・取組状況	上五島地区における防災行政無線同報系屋外拡声子局のデジタル化更新整備を行った。 ・屋外拡声子局新設 36局、 ・屋外拡声子局スピーカー更新1局（役場屋上）、 ・簡易中継局新設 1局、 ・遠隔制御装置設置1台（消防本部司令室）、 ・操作卓改造 1式 事業費 213,357千円
成果（できたこと）	住民の生命及び財産を守るための迅速かつ確実な情報伝達機能の充実により、安全を実現できる体制づくりが図られる。
課題（できなかったこと）	なし
担当課評価	B 本事業は、防災に関する情報提供等、住民の生命及び財産を守るために整備するものであり、計画どおり事業を実施できたことにより、既存機器が使用不能となる前に不測の事態に備え最新機器を整備し、住民に対し防災に関する情報等を提供できる。
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	近年、予測しがたい災害の発生が増加しており、迅速かつ正確な情報伝達を行い、住民の生命及び財産を守ることができるよう、年次計画で確実なデジタル化整備を推進する。
委員評価	B 2次評価のとおり

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
具体的な施策	ア	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	②	安全な暮らしを守る地域づくり	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	消防団員安全装備整備事業【新規】		
担当課名	総務課	所属長名	堀 江 一 弘
関係課名			
事業の目的	近年、予測しがたい災害の発生が増加しており、記録的豪雨による大規模な土砂災害などの災害発生時（風水害・地震・火災等）に即応出来る消防団員の、安全靴等の安全装備を整備することにより2次災害を防ぎ、消防団員の活動の効率化及び安全面の対策を図り、消防団員の確保に努め、更には災害に強い住み良いまちづくりを目的とする。		
事業の内容	消防団員の安全装備（安全靴等）の整備		
事業の実績・取組状況	新規事業のため、H27年度の取り組みは無し。		
成果（できたこと）	—		
課題（できなかったこと）	—		
担当課評価	—		
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	分団長会議などの議題の中で、消防団員にとって必要な安全装備品を検討し、補助金等も考慮しながら整備に向けた予算獲得に努める。		
委員評価	—	次年度以降に評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分	
基本目標	3 伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る
具体的な施策	ア 「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備
	② 安全な暮らしを守る地域づくり
	1 地域を支えるインフラ・サービスの活性化
事業名	消防訓練・講習を通じた消防団員確保事業【新規】
担当課名	総務課
関係課名	
所属長名	堀 江 一 弘
事業の目的	各種災害等に即応できる消防団員数が減少傾向にあるため、各地区で住民に向けての消火栓説明会や訓練等の実施、更には消防団員募集の広報活動を行ない、広く住民に消防団活動への関心や、必要性を理解して頂くとともに消防団員の確保を目的とする。
事業の内容	町内全域を対象にした消防訓練・講習の開催や団員募集の広報活動を行う。
事業の実績・取組状況	従来から実施されていた新魚目地区の消火栓説明会の開催や女性消防団員を活用した団員募集の広報活動を実施した。今後、町内全域を対象にした消防訓練・講習の開催などを行う。
成果（できたこと）	新魚目地区住民の消防活動の技術向上及び防火に対する意識向上に繋がった。
課題（できなかったこと）	消防団員数を増やすことができなかった。
担当課評価	D H27年度は、従来から実施していた消火栓説明会と団員募集の広報活動を実施できた。 ただし、団員数の増加には繋がらなかった。
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	住民を対象にした消防訓練や講習などを町内全域に広げるための開催計画及び、団員募集の広報活動について、他の自治体の効果的な取組情報を収集・検討し、本町にあった広報活動を行う。
委員評価	D 人口減少と同じで、消防団員も若い人が減り、後継者が少なくなっている。町内事業所に対しても、消防団員確保について協力を求め、職員の消防団活動に理解していただくようお願いしながら、消防団員の確保に努めるべき。

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分	
基本目標	3 伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る
具体的な施策	ア 「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備
	② 安全な暮らしを守る地域づくり
	1 地域を支えるインフラ・サービスの活性化
事業名	自主防災組織設立事業【新規】
担当課名	総務課
所属長名	堀 江 一 弘
関係課名	
事業の目的	近年、自然災害により各地に大きな被害が発生しており、その態様も多様化、大規模化している。このような中、地域住民の備えと互いの助け合いが大きな役割を果たすことが改めて認識されている。このため、自主防災組織の新規結成に要する費用及び既存組織の活動促進を図ることを目的とする。
事業の内容	組織結成、防災訓練・防災意識の高揚、資機材整備に要する費用を補助する事業
事業の実績・取組状況	新規結成された2組織（船崎地区、今里地区）に備品整備を行った。97千円 自主防災組織についての地区説明会として4回の説明会をおこなった。
成果（できたこと）	地域住民の日常生活の安全確保体制の強化及び防災意識の高揚に繋がった。
課題（できなかったこと）	目標の新規結成組織数達成及び自主防災組織についての地区長等への説明会が目標回数に達しなかった。
担当課評価	D 当初は、3つの組織の新規結成、地区長等に説明会の場の設定を打診し15回程度の地区説明会を予定していたが、達成できなかった。
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	新規結成組織数の増と既存組織の活動促進に向けて、従来どおりの文書による依頼に加え、地区長・駐在員会議による説明及び電話により積極的に働きかけを行っていくことも必要である。自主防災組織の重要性・必要性を根気強く説明し、新規結成に繋げる。
委員評価	D 2次評価のとおり

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	3 伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る		
具体的な施策	ア 「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備		
	② 安全な暮らしを守る地域づくり		
	1 地域を支えるインフラ・サービスの活性化		
事業名	災害備品・備蓄品整備事業		
担当課名	福祉長寿課	所属長名	萬屋三男
関係課名	消防防災室		
事業の目的	震災時等において、家屋の倒壊、焼失等により、多数の避難者、負傷者の発生が予測される中、町民の自らが非常用持出品として食料品等の備蓄をすることを基本としつつ、非常用持出品の持ち出せなかった避難者等のための食料品等について備蓄を行い、災害発生に対応することを目的とする。		
事業の内容	町全体の備蓄目標量は、およその町人口20,000人×5%×3日分であり、次の品目・数量を計画して、5ヵ年(10ヵ年)で整備を進める。①アルファ化米 6,000食 ②ミネラルウォーター 9,000L ③毛布 1,500枚(10ヵ年) ④ポータブルトイレ消耗品(排使用袋)300個・(排便以外)1,500個について計画的に整備する。(※内20%は住民自ら備蓄することを想定)		
事業の実績・取組状況	下記の備蓄品等の整備を行った。 1,068千円 ①アルファ化米 1,200食 ②ミネラルウォーター 1,800L ③毛布 150枚 ④ポータブルトイレ消耗品(排使用袋)50個・(排便以外)260個 ポータブルトイレ本体5台・トイレ用 TENT5張を整備した。 役場本庁及び4支所に配置。		
成果(できたこと)	平成28年1月24日、記録的な大雪による町内全域の水道管の破裂事故発生により、各所で断水状態となったが、緊急的に本事業で備蓄したミネラルウォーターを断水世帯に配布し、混乱を緩和できた。		
課題(できなかったこと)	個人の災害備蓄の重要性及び町が実施した災害備蓄の現状の周知が不十分だった。		
担当課評価	B	町の備蓄品等については、計画的に整備している。住民への災害備蓄の重要性等の周知が不十分だった。	
課題の解決策(目標(KPI)向上に向けた今後の取組方法)	①本所、4支所の保管所から、避難箇所へどのように搬送するか、事前に想定する。 ②個人備蓄の重要性についての認識を高め、備蓄している現状を住民に広報誌等で周知する。 ③他の災害備蓄品について、今後も検討していく。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A : 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B : ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C : 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D : 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E : 目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分	
基本目標	3 伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る
具体的な施策	ア 「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備
	② 安全な暮らしを守る地域づくり
	1 地域を支えるインフラ・サービスの活性化
事業名	防犯灯設置補助事業
担当課名	財産管理課
所属長名	初 田 正 信
関係課名	
事業の目的	地域の犯罪防止を図るために、各地区が行なう防犯灯の新設及び補修に要する経費に関して補助金を交付する。
事業の内容	防犯灯の新設及び補修等に要する経費に関して補助金を交付する。
事業の実績・取組状況	申請件数73件（109基）、交付額4,992,736円
成果（できたこと）	地域の犯罪防止環境の整備が図れた。
課題（できなかったこと）	LEDへの変更だけの要望もあるが、現時点では、新設と補修等のみの対応となっている。
担当課評価	B 毎年度、防犯灯の新設及び補修等で支援の申請があっており、安全・安心な地域づくりのためにも、本事業は継続すべき。
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	今後も補助制度を維持していくことで犯罪の抑止力となる。
委員評価	B 2次評価のとおり

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
具体的な施策	ア	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	②	安全な暮らしを守る地域づくり	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	自然災害防除事業（国・県事業含む）		
担当課名	建設課	所属長名	本田 雄 喜 治
関係課名			
事業の目的	国・県と連携を図りながら、砂防ダム事業、急傾斜地崩壊対策事業及び河川の整備事業を推進し、山地の崩壊や土砂の流出、河川の氾濫等による災害の防止を図り住民生活の安全・安心を確保する。		
事業の内容	砂防ダム事業、急傾斜地崩壊対策事業及び河川の整備事業を行う。		
事業の実績・取組状況	自然災害防除事業 28,533千円 【県営事業負担金】急傾斜地崩壊対策事業 小奈良尾地区・中筋(1)地区 （町で地権者の同意書を取得しながら県が事業を進めている。） 17,090千円 【町単独事業】佐野原地区排水路（L=8.5m/L=6.9m）・迎川護岸（L=9.3m/L=5.3m）・ 新納屋川護岸（L=7.0m/L=7.0m）・小田迫川護岸（L=27.5m/L=33.5m） 11,443千円		
成果（できたこと）	財源が厳しい中であるが、自然災害防除事業は計画的に執行されており、住民生活の安全・安心を確保することに繋がっている。		
課題（できなかったこと）	事業整備の為に、用地の取得・承諾が困難な案件もある。		
担当課評価	B	住民の安全・安心を確保するために、計画的に事業は進捗しており、今後も継続すべき。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	急傾斜地崩壊対策にあつては、用地の取得において、町としても整備の必要性を説明し承諾が得られるように進めていく。また、用地の取得が可能な箇所について整備促進を図る。 町単独河川整備においては、限られた予算の中で、優先順位を整理し、安全性と利便性を確保していく。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。